立命館大学大学院
2024年度実施　入学試験
博士課程前期課程
政策科学研究科
政策科学専攻

入試方式	実施月	小論文	
		ページ	備考
一般入学試験 （日本語基準）	7月（2024年9月入学）	P.1～	社会人入試と共通
	7月	P.1～	
	9月	P.3～	
	2月	P.5～	社会人入試と共通
一般入学試験 （英語基準）	7月（2024年9月入学）		
	7月		
	9月		
	12月		
	2月（2025年9月入学）		
社会人入学試験	7月（2024年9月入学）	P.1～	一般入試（日本語基準）と共通
	2月	P.5～	一般入試（日本語基準）と共通
外国人留学生入試 （特別相互推薦・日本語基準）	7月（2024年9月入学）		
	9月		
	12月		
	2月（2025年9月入学）		
学内進学入学試験	7月（2024年9月入学）		
	7月		
	9月		
	2月		
	2月（2025年9月入学）		
飛び級入学試験	7月（2024年9月入学）		
	2月		

【表紙の見方】
×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験（筆記試験）を実施しないもの

立命館大学大学院
2024年度実施　入学試験
博士課程後期課程
政策科学研究科
政策科学専攻

入試方式	実施月	試験科目	ページ	備考
一般入学試験 （日本語基準）	7月 （2024年9月入学）	英語	×	
		日本語	×	
	2月	英語	P.7～	
		日本語	×	
一般入学試験 （英語基準）	7月 （2024年9月入学）			
	12月			
社会人入学試験	7月 （2024年9月入学）	英語	×	
		日本語	×	
	2月	英語	×	
		日本語	×	
外国人留学生入学試験 （特別相互推薦・日本語基準）	7月 （2024年9月入学）			

【表紙の見方】
×・・・入学試験の実施がなかった等の理由で入学試験問題の作成がなかったもの、または、問題を公開しないもの
斜線・・・学科試験（筆記試験）を実施しないもの

2024 年度・2025 年度大学院入学試験＜2024 年 7 月 7 日実施＞

政策科学研究科前期課程　入学試験問題

筆記(小論文)試験

＜一般入試・社会人入試＞

試験時間　10 時 30 分　～　11 時 10 分
(途中退室はできません)

- 持ち込み許可物件はありません。
- 問題は試験終了後に回収します。

以下の新聞記事を読み、次の問に答えよ。

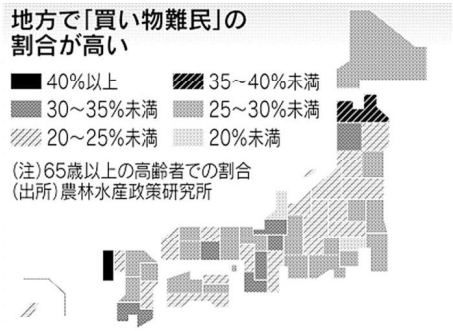
「記事の論旨を要約し、あなたの見解を論じなさい」

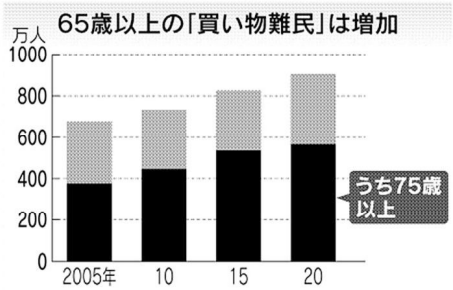
高齢者、ワーストは長崎 農水省推計

青森県の南部町では平日5日、日用品や食品を載せた移動販売車が町内全域を回る。高齢化率はおよそ4割と、全国平均より1割高い。高齢者や病気を持つ人を中心に1日50人程度が足を運ぶ。町から補助を受けて商工会が運営するが、担当者は「補助金がないとやっていけない」とこぼす。

高齢者の買い物難民の総数は904万人と、同年代の総人口のうち25%を超えた。農林水産政策研究所は居住地からスーパーやコンビニエンスストアまでの距離が500㍍以上あり、自動車の使用が難しい65歳以上の高齢者の数を2020年の国勢調査を基に推計した。

集計方法の変更で単純比較はできないが、総数は前回の15年を基にした推計から1割増えた。うち75歳以上は566万人で、同年代全体の30%以上を占める。





商店の廃業、バスや電車といった公共交通機関の廃止で、買い物に苦労する人が増えている。自動車免許を自主返納して、移動販売や宅配に頼る高齢者も目立つ。

都道府県別の買い物難民の割合を見ると、長崎が41%と最多だった。75歳以上に絞ると半数を超える。離島や坂が多く、周辺に店舗がない人が多いとみられる。青森が37%、鹿児島が34%と続く。都市圏は24%、地方圏は26%と差があったものの、東京や大阪など都市圏にも一定数、買い物難民が存在している。神奈川が最多の60万人、東京・大阪・愛知はそれぞれ50万人を上回った。全国の半数弱の買い物難民は都市圏にいる。

前回推計と比較すると、東京は買い物難民の総数が11%減った。小型スーパーが増えた。一方で高齢化が進んだ長崎、青森、鹿児島などは状況が悪化した。

高齢化に加え、インフレで個人の実質所得も伸び悩むなか、買い物難民の増加傾向は続きそうだ。栄養不足で健康悪化を招くおそれもあり、政府は個人の食料確保は喫緊の課題と位置づける。

今国会での成立を目指す「食料・農業・農村基本法」の改正案では食料安全保障の確保を「良質な食料が合理的な価格で安定的に供給され、かつ、国民一人一人がこれを入手できる状態」と新たに定義した。

特に、地理的・経済的な要因にかかわらず、輸送手段の確保や寄付を通じた「食料の円滑な入手」の実現を基本的な施策としてあげた。

農水省は3月、国土交通省や経済産業省など他省庁の支援策も含めた買い物弱者への対応策を公表した。商店へのアクセスが難しい地域では移動販売や宅配サービスへの補助金に加えて、自動運転バスの実証実験など交通手段への支援というアクセス向上にも力を入れる。

経済的な理由で食料品の購入が難しい人を念頭に、フードバンクやこども食堂も充実する。23年度補正予算では初めて食品アクセスの対策として1・5億円を確保した。地域ぐるみで食品アクセス問題解決の計画を策定し、設備の導入にも補助金を出す。

出典：「「買い物難民」4人に1人」2024年4月23日　日本経済新聞　朝刊

2024 年度大学院入学試験＜2024 年 9 月 7 日実施＞

政策科学研究科前期課程　入学試験問題

筆記(小論文)試験

＜一般入試＞

試験時間　10 時 30 分　～　11 時 10 分
(途中退室はできません)

- 持ち込み許可物件はありません。
- 問題は試験終了後に回収します。

以下の新聞記事を読み、次の問１、問２の両方に答えよ。
解答用紙に問題番号を標記してから解答すること。

問１　記事の論旨を要約しなさい。
問２　この記事が指摘する問題について、あなたの見解を論じなさい。

２０２３年12月、改正空き家対策特別措置法が施行され、「問題のある空き家」の対象が拡大された。破損状況などが軽微な場合でも「管理不全」と判断され、固定資産税が軽減される特例措置の対象から除外される可能性が出てきた。老朽化した実家を放置して近隣住民から自治体に苦情が寄せられ、問題が顕在化する例も少なくない。どう対応すべきかを探った。

「１回要請に応じたら苦情が相次ぐようになった」。東京都内にある空き家を親から相続した40代男性会社員は肩を落とす。

23年、空き家の庭木が伸びて近隣の電線に接触していると連絡があり、慌てて専門業者に約20万円を支払い枝を刈った。これを機に「蜂が巣をつくると困るからツタも処理して」「２階の眺望が悪くなるので、この木も切って」と苦情を訴える書面が次々に投げ込まれる事態に。

男性は遺品整理などが終わり次第、空き家を売る予定で「迷惑はかけたくないが、費用も手間もかかる。すぐの対応は難しい」と語る。一方で、近所に住む女性も「これまでは我慢していた。早く何とかして」と譲らない。

老朽化した空き家を巡るトラブルが各地で相次ぐ。18年時点で約８４９カ戸ある空き家のうち、特に管理が行き届きにくいとされる「使用目的のない空き家」は約３４９万戸。20年間で約１・９倍に増えた。

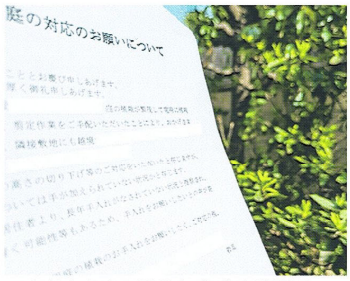
国は23年12月に改正特措法を施行。これまで周辺の安全などに著しい悪影響を及ぼすものを「特定空き家」とし、自治体による勧告に至った場合は固定資産税の軽減特例から外してきたが、予備軍にあたる「管理不全空き家」も除外対象に加えた。勧告を受けると、土地の広さに応じて固定資産税が軽減される住宅用地向けの特例措置が受けられなくなる。

国のガイドラインは「特定」について、屋根ふき材なら飛散する恐れがある著しい破損を例示しているが、「管理不全」は破損だけで該当し得る。

近所の空き家に不満を抱える住民にとっては、問題が深刻になる前に所有者や自治体に改善を促す根拠ができた。空き家問題を研究するＳＯＭＰＯインスティチュート・プラス（東京・新宿）の宮本万理子副主任研究員は「多くの自治体が近隣住民の声を空き家の実態把握に活用したいと考えている。法改正で要望や苦情が聞き届けられやすくなる期待がもてる」と話す。

ただし要望する際は冷静さも大切だ。「隣が空き家だから、うちにシロアリが出たと詰め寄られた」。関東地方の空き家管理業者は、担当物件へのクレームに困惑した経験を明かす。

「無関係とは断言できないが、苦情を訴えた人の家も古く、責任転嫁に聞こえた」



空き家の庭の手入れを求める書面
（都内）――一部画像処理しています

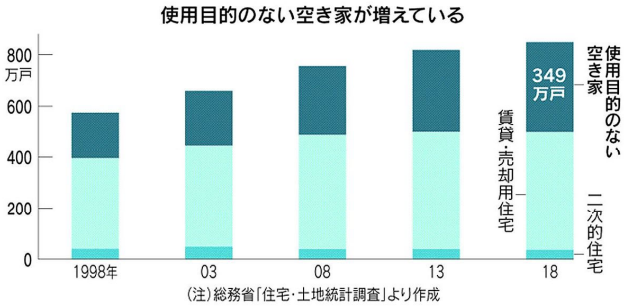
感情的なもつれが深まれば、所有者が空き家管理に消極的になり、問題解決が遠のく可能性もある。

宮本副主任研究員は「近隣住民も国のガイドラインで『特定』や『管理不全』の例を調べてほしい」と語る。空き家の屋根や外壁、排水設備、害虫の状況などが例示されており、空き家の状態と照合すれば、問題といえる状況かを確認する材料になる。

空き家の所有者側には、「管理不全」の導入で早い段階から問題視されることへの不安が根強い。

ＮＰＯ法人空家・空地管理センターの上田真一代表理事は「すぐに管理不全とされるわけではなく、改善要望に対する所有者の対応などで自治体の判断が変わる」と指摘する。所有者に適切な管理を促すのが法改正の目的で「近所や自治体の要請に対処する姿勢を見せたり、対応できない理由を説明したりすれば、すぐに管理不全と判断されることはない」という。

空き家の状態悪化を避けたいのは関係者共通の思いだ。近隣住民は空き家の状況を所有者や自治体に適切に伝え、所有者らはきちんと対応する姿勢を示すことが大切だ。上田さんは「『空き家イコール悪』とみなすだけでは状況は改善しない。所有者はもちろんだが、近隣住民も可能な範囲で管理を助けるといった連帯の姿勢が問われる」と話す。



（注）総務省「住宅・土地統計調査」より作成

	新 管理不全空き家	特定空き家
屋根ふき材	破損	著しい破損（飛散のおそれ）
立木	伐採されず腐朽	著しい傾斜など（倒壊のおそれ）
排水設備	破損	著しい破損（汚水流出のおそれ）

（注）国土交通省の資料より作成。状態は例示で、実際の判断は個別事情などで異なる

出典「生活：「管理不全」の空き家　放置せず」（日本経済新聞2024年4月25日夕刊）

2025 年度大学院入学試験＜2025 年 2 月 11 日実施＞

政策科学研究科前期課程　入学試験問題

筆記(小論文)試験

＜一般入試＞

試験時間　10 時 30 分　～　11 時 10 分
(途中退室はできません)

- 持ち込み許可物件はありません。
- 問題は試験終了後に回収します。

下記の新聞記事を読み、次の問①、②に答えよ。

①記事の論旨を要約せよ。

②記事について、あなたの見解を論じなさい。

能登地震関連死 直接死を上回る

元日の能登半島地震で、避難生活の疲労やストレスに起因する「災害関連死」が22日、235人となり、地震による直接死を上回った。避難所で生活の質が低下したことが背景にある。1995年の阪神大震災や2016年の熊本地震でも指摘された課題だが、対策は途上にある。

石川県が新たに災害関連死と認定したのは輪島市6人、穴水町4人、能登町5人の計15人。新潟、富山の両県の6人と合わせた関連死は累計で235人になり、家屋倒壊や火災などによる直接死（227人）を超えた。これまでの死者は計462人になった。

熊本地震で熊本、大分両県で認定された222人も上回った。

輪島市で11月22日までに年代を公表した関連死35件のうち、80～90代が約8割を占めた。死因は肺炎や心臓病が目立つ。市によると、多くは長期間にわたって停電や断水が続いた避難所での生活で心身にストレスがかかったことが原因という。

災害関連死は阪神大震災をきっかけに注目された。スペースが不十分な避難所での雑魚寝、暖房の効かない寒さなど悪条件が重なった。関連死は犠牲者の1割超にあたる約900人。心疾患や肺炎などを患って亡くなった。

2004年の新潟県中越地震や16年の熊本地震では車中泊を余儀なくされ「エコノミークラス症候群」になる人が相次いだ。

大規模災害のたびに避難者の生活環境の過酷さが課題に挙げられ、国は対応を見直した。高齢者など災害弱者を受け入れるための「福祉避難所」の仕組みを整え、11年の東日本大震災後には避難所運営の指針に簡易ベッドの導入を目指すと盛り込んだ。

能登半島地震の激震地は高齢化が進む寒冷地。専門家らが当初から関連死の危険性を指摘したが、これまでの災害と同様、環境改善は十分に進まなかった。

「避難所の衣食住の質があまりにも低かった」。地震発生直後に珠洲市に支援に入ったNPO法人「YNF」（福岡市）の江崎太郎代表理事は振り返る。一部の避難者は体育館に入りきれず入り口近くに横たわり、弁当が足りず連日乾燥米を食べる人もいた。

地震による直接死が2人だった能登町は関連死が44人に達した。町担当者は「トイレや寒さをしのぐストーブが不足していた」と話す。被災地では感染症対策が徹底できず、新型コロナウイルスの感染が広がった避難所もあった。

日本と同じ「地震大国」のイタリアは避難環境の快適さを重視する。

1980年の地震で2700人以上が犠牲になった反省から国の「市民保護局」が被災者対応などを担う。2009年のイタリア中部地震では発生から48時間以内に、約1万8千人分のテントのほか、仮設トイレやキッチン、シャワーを各地の避難所に配備した。

4月に地震が起きた台湾の花蓮市でも避難所に並べる個別のテントや簡易ベッドが発生直後に届き、日本国内でも話題になった。

イタリアで現地調査をした新潟大特任教授の榛沢和彦医師は「日本は過去の災害の教訓を全く生かせていない」と批判する。

日本の災害対策基本法は被災した住民への支援の責務が基本的に市町村にあると定める。大規模災害時に国が自治体の要請を待たずに人員や物資を送る「プッシュ型支援」の制度はあるが、避難所運営などは原則として自治体任せだ。

しかし自治体の備蓄はばらつきが大きい。今回、避難所に段ボールベッドが行き渡るまで1カ月近くかかった地域もある。

能登では三方を海に囲まれた半島特有の難しさも影響した。道路の寸断によって被災地への物資輸送が遅れた。日常的なケアが必要な高齢者施設でも停電や断水が続き、福祉避難所は2週間後の時点で想定の2割しか開設できなかった。

石破茂首相は10月、所信表明演説で発災後速やかにトイレやキッチンカー、ベッドなどを配備できるよう平時から官民で連携するとした。避難所設置の国際基準「スフィア基準」をもとに運営を見直し「災害関連死ゼロの実現」を掲げる。

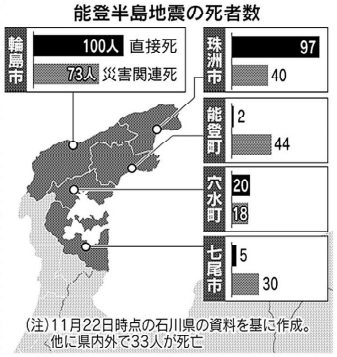
先進国の中でも目立つ関連死の多さを克服しなければ、大規模地震の人的被害拡大を食い止められない。榛沢医師は「職員や財源に余裕のない自治体任せの災害対策を続ける限り現状は変わらない。少なくとも初動は国や県が責任をもって主導できる制度に見直し、備蓄施設やボランティアの派遣体制を整える必要がある」と話す。

（田辺アリンソヴグラン）

▼災害関連死　地震など災害後の避難生活中に持病や体調が悪化して亡くなった犠牲者。家屋倒壊や津波による直接的な原因とは違い、環境の変化や避難所生活、転入院などによる肉体的・精神的疲労が背景にあるとされる。

遺族が自治体に申請し、医師や弁護士など有識者でつくる審査会が災害と死亡の因果関係を調べる。認定されれば遺族に最大500万円の弔慰金が支払われる。費用は国が2分の1、都道府県と市町村が4分の1ずつ負担する。

能登半島地震の死者数



避難所に集まった被災者ら
（1月、石川県輪島市）

出典　「能登地震関連死　直接死を上回る」
（2024年11月23日日本経済新聞　朝刊037ページ）

2025 年度大学院入学試験＜2025 年 2 月 11 日実施＞

政策科学研究科後期課程　入学試験問題

筆記(外国語)試験

＜一般入試＞

試験時間　10 時 00 分　～　11 時 30 分
(途中退室はできません)

- 辞書持ち込み可。ただし電子辞書は不可。
- 問題は試験終了後に回収します。

[A]　次の英文は、アメリカの社会学者Eric Klinenbergが*New York Times*に寄稿した論考"Why Libraries Still Matter"(2018, September 9) からの抜粋である。この文章を読み、以下の問いに答えなさい。

Libraries are an example of what I call "(a) social infrastructure": the physical spaces and organizations that shape the way people interact. Libraries don't just provide free access to books and other cultural materials, they also offer things like companionship for older adults, de facto child care for busy parents, language instruction for immigrants and welcoming public spaces for the poor, the homeless and young people.

I recently spent a year doing ethnographic research in libraries in New York City. Again and again, I was reminded how essential libraries are, not only for a neighborhood's vitality but also for helping to address all manner of personal problems.

For older people, especially widows, widowers and those who live alone, libraries are places for culture and company, through book clubs, movie nights, sewing circles and classes in art, current events and computing. For many, the library is the main place they interact with people from other generations.

For children and teenagers, libraries help instill an ethic of responsibility, to themselves and to their neighbors, by teaching them what it means to borrow and take care of something public, and to return it so others can have it too. For new parents, grandparents and caretakers who feel overwhelmed when watching an infant or a toddler by themselves, libraries are a godsend.

In many neighborhoods, particularly those where young people aren't hyper-scheduled in formal after-school programs, libraries are highly popular among adolescents and teenagers who want to spend time with other people their age. One reason is that they're open, accessible and free. Another is that the library staff members welcome them; in many branches, they even assign areas for teenagers to be with one another.

To appreciate why this matters, (b) compare the social space of the library with the social space of commercial establishments like Starbucks or McDonald's. These are valuable parts of the social infrastructure, but not everyone can afford to frequent them, and not all paying customers are welcome to stay for long.

Older and poor people will often avoid Starbucks altogether, because the fare is too expensive and they feel that they don't belong. The elderly library patrons I got to know in New York told me that they feel even less welcome in the trendy new coffee shops, bars and restaurants that are so common in the city's gentrifying neighborhoods. Poor and homeless library patrons don't even consider entering these places. They know from experience that simply standing outside a high-end eatery can prompt managers to call the police. But you rarely see a police officer in a library.

This is not to say that libraries are always peaceful and serene. During the time I spent doing research, I witnessed a handful of heated disputes, physical altercations and other uncomfortable situations, sometimes involving people who appeared to be mentally ill or under the influence of drugs. But such problems are inevitable in a public institution that's dedicated to open access, especially when drug clinics, homeless shelters and food banks routinely turn away -- and often refer to the library! -- those who most need help. What's remarkable is how rarely these disruptions happen, how civilly they are managed and how quickly a library regains its rhythm afterward.

The openness and diversity that flourish in neighborhood libraries were once a hallmark of urban culture. But that has changed. Though American cities are growing more ethnically, racially and culturally diverse, they too often remain divided and unequal, with some neighborhoods cutting themselves off from difference -- sometimes intentionally, sometimes just by dint of rising costs -- particularly when it comes to race and social class.

Libraries are the kinds of places where people with different backgrounds, passions and interests can take part in a living democratic culture. They are the kinds of places where the public, private and philanthropic sectors can work together to reach for something higher than the bottom line.

This summer, (c) Forbes magazine published an article arguing that libraries no longer served a purpose and did not deserve public support. The author, an economist, suggested that Amazon replace libraries with its own retail outlets, and claimed that most Americans would prefer a free-market option. The public response -- from librarians especially, but also public officials and ordinary citizens -- was so overwhelmingly negative that Forbes deleted the article from its website.

We should take heed. Today, as cities and suburbs continue to reinvent themselves, and

as cynics claim that government has nothing good to contribute to that process, it's important that institutions like libraries get the recognition they deserve. It's worth noting that "liber," the Latin root of the word "library," means both "book" and "free." Libraries stand for and exemplify something that needs defending: the public institutions that -- even in an age of atomization, polarization and inequality -- serve as the bedrock of civil society.

出典: Klinenberg, Eric (2018, September 9). Why Libraries Still Matter [Op-Ed]. *New York Times*, Late Edition (East Coast).

問1.　Librariesは下線部(a) のsocial infrastructureとして、人々にどのように使用されているのか。文中の具体例を使って説明しなさい。

問2.　下線部(b)について、StarbucksやMcDonald’sのようなcommercial establishmentsは、social infrastructureとしてlibrariesとどのように異なるのか、本文に基づいて説明しなさい。

問3.　下線部(c)のarticleの内容を具体的に説明しなさい。

From The New York Times. © 2018 The New York Times Company.
All rights reserved. Used under license.

[B] 次の英文は、José Ortega y Gasset 著*La Rebelión de las Masas*（1929）の英語版（1984）へのSaul Bellowによる序文からの抜粋である。この文章を読み、以下の問いに答えなさい。

Ortega when he speaks of the mass man does not refer to the proletariat; he does not mean us to think of any social class whatever. To him the mass man is an altogether new human type. Lawyers in the courtroom, judges on the bench, surgeons bending over anaesthetized patients, international bankers, men of science, millionaires in their private jets are, despite their education, their wealth, or their power, almost invariably mass men, differing in no important respect from TV repair men, clerks in Army-Navy stores, municipal fire-inspectors, or bartenders. It is Ortega's view that we in the West live under a dictatorship of the commonplace. The triumphs of science and technology have made possible a huge increase in population, and with new multitudes has come a revolutionary change in the character of civilized society, for in Ortega's view revolution is not merely an uprising against the existing institutions but the establishment of a new order which reverses traditional order. The modern revolution has created for the average man, for the great social conglomerate to which he now belongs, a state of mind radically opposite to the old. Public life has been turned inside out. The unqualified individual, "equal in law," belongs to the sovereign mass. Examining the collective assumptions of this sovereign mass Ortega reaches the conclusion that, although the world remains in certain respects civilized, its inhabitants are barbarians. In Ortega's view barbarism is defined by the absence of norms. (a) "There is no culture where there are no principles of civil legality to which to appeal." In mass society philosophy and art suffer the same fate as the legal traditions.

What are the characteristics of Ortega's mass man? (b) He is unable to distinguish between the natural and the artificial. Technology, which surrounds him with cheap and abundant goods and services, with packaged bread, subways, blue-jeans, with running water and electrical fixtures that light up at the touch of a finger, has as it were worked itself into his mind as an extension of the natural world. He expects that there will be air to breathe, sunlight. He also expects elevators to go up, buses to arrive. His ability to distinguish between artifact and organism withers away. Blind to the miraculous character of nature, as well as to the genius of technology, he takes both for granted. So in Ortega's mass society the plebeians have conquered, and they do not concern themselves with civilization as such but only with the wealth and conveniences provided by mechanization. The spirit of a mass society bids it to abandon itself freely to itself and to embrace itself;

practically nothing is impossible, nothing is dangerous and, in principle, no one is superior to anyone else--this, Ortega submits, is the mass man's creed. The "select man" by contrast, insofar as he serves a transcendental purpose, understands that he must accept a kind of servitude. "To live at ease," said Goethe, "is plebeian; the noble mind aspires to ordinance and law." It follows from this that the mass man lacks seriousness. With him nothing is for real, all parts are interchangeable. For him everything is provisional. He may occasionally play at tragedy, but the prevailing mood is one of farce. The mass man loves gags. He is a spoilt child, demanding amusement, given to tantrums, lacking the form, the indispensable tension which only imperatives can give. His only commandment is Thou shalt expect convenience. "The only real effort is expended in fleeing from one's own destiny."

出典：Bellow, Saul (1984). Foreword. In José Ortega y Gasset, *The Revolt of the Masses* (pp. ix-xiii). University of Notre Dame Press. (Original work, *La Rebelión de las Masas*, published in 1929)

問1.　下線部(a)を日本語に訳しなさい。

問2.　下線部(b)の指示するものは何か。原文中から抜書きの上、その特徴を説明しなさい。

問3.　"the mass man"について、以下の問いに答えなさい。
(1)近い意味の用語のうち二つを、原文中から選んで抜書きしなさい。
(2)対比されている用語のうち一つを、原文中から選んで抜書きしなさい。

Foreword to THE REVOLT OF THE MASSES
by Saul Bellow. Copyright © Saul Bellow, used by permission of The Wylie Agency (UK) Limited.